

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100043
法人名	有限会社田代総合サービス
事業所名	グループホームなごみ吉志
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目8番42号
自己評価作成日	平成24年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年4月13日	評価結果確定日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者さまのことを優先、共有し、ご家族との連携を密にとり信頼関係を築いている。 ・利用者さまと職員が「ひとつ」の家族となり「目配り、気配り、心配り」を大切に、明るく笑顔の絶えない”和やか”な雰囲気を保っています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>幹線道路沿いの住宅街の一角に位置し、1階が小規模多機能型事業所、2階が1ユニットのグループホームとなり、日常的な交流や情報共有を通じて、連携を図っている。ホームの理念である「目配り・気配り・心配り」のもとに、「住み慣れたところで、馴染みの人と、やりたいことを」をモットーに、全職員でその実践に努めている。センター方式の活用や看護計画の作成、明確に示された終末期に向けた方針等、個々人の思いやニーズに応えるべく、支援の背景となる情報収集や方針の共有、支援体制の整備に取り組んでいる。また、医療との密な連携はもとより、観察点の明確化や気づきを重視した職員育成を図り、健康管理や早期対応につなげながら、本人、家族が安心して過ごせるよう日々取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基本である“目配り・気配り・心配り”を常に念頭に置き、管理者と職員は理念を共有し実践にむけて、日々…取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念とともに、「目配り・気配り・心配り」を常に意識したかわりや状態観察が行えるよう職員教育を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地環境により多々、難しい点もあるが、最近では地域小学校の野球見学や、支援センターの文化祭へ利用者と出向くなど少しずつではあるが交流参加に努めるなど積極的に取り組んでいる	町内会に加入している。小学校運動会や支援センター文化祭の見学、図書館の利用等を通じて交流の機会を広げ、地域とのつながりをもっている。看護学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう啓発、広報に取り組んでいる。通りに面してホームの看板がよく見えるようにしており、見学希望者の対応に、快く応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さまのサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告、話し合い、そこでの意見を記録に残し、サービス向上に活かしている	併設する小規模多機能型事業所と合同で、2ヶ月に1回、定期開催されている。状況報告や意見交換を行い、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。家族との情報共有や連携は図られているが、会議への出席が少ない状況である。	継続して家族への案内を行い、家族機能の活用も踏まえ、参加に向けた働きかけを行う意向である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村(区役所)に日頃から行き来する機会をつくり担当者と共にサービスの向上に取り組んでいる(市町村主催の催事および研修案内に参加する)(地域包括支援センターとの情報交換)(介護保険の更新手続き、訪問調査依頼)等	行政主催の研修会では講師を務めたり、見学等の受け入れも行われている。困難事例等へは、市町村担当者や関係機関との連携を図りながら対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。”やむおえず”の場合に関しては、ご家族との話し合いにより[身体拘束に関する説明書]の記載要綱を熟読の上、許可をいただいている。なお、一ヶ月単位で取り交わしている	年間研修計画の中に位置付け、身体的拘束だけではなく、言葉による抑制についても意識を持ち、職員の理解を深め、共有認識を図っている。基本的には日中の施錠は行わないこととし、敷地内の畑の様子が気になる方が、自由に行き来する姿も見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロの介護者としての意識を常にふまえ利用者さまに接しており、身体的および言葉による暴力なども行わないことを心掛けている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ研修(機会)を持ち、研修内容を職員間で把握し理解している。また、施設に後見制度を利用している方がいるため、ケアマネがその対応にあたっている	入居時に、権利擁護に関する制度について、説明を行っている。現在、制度を活用している方もおり、研修等にて職員の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの運営理念を契約時に説明し、文書をホームの見えやすい場所に明示している。入居後も、ご家族に疑問点があれば詳細に説明し納得していただくように心がけている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情などを受け入れる窓口を設けており、家族の意見を尊重することでケアの改善に努めている。また、家族会を開いて参加していただき、その折に意見交換をしている。ただ、運営推進会議には残念ながら最近ご家族の参加が少なくなっている	家族の来訪時や事業所便りの発行を通じて、情報共有に努めている。また、家族会を開催する等、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや勉強会を開き、意見交換や情報提供、ケアの改善などを話し合う事で業務改善や運営をスムーズに行えるように努めている	毎月、職員全員参加を原則とするミーティングを実施している。意見や提案を検討し、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のチームワークにて楽しい職場となっており職員には常に研修参加によるスキルアップに努めている。また、労働時間、シフト作成については負担を少なくし、心身の健康面を考慮。また昇給、ボーナス、福利厚生と働きやすい環境作りに努めている。年間行事として(忘年会、新年会、歓送迎会、その他)		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては年齢や性別の制限はしてなく、事業所で働く職員には個々の能力が活用できるような環境の場を設けており職員一人一人の尊厳も保たれている	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。資格取得や研修参加に向けたサポートを行い、スキルアップを促している。業務担当を交代で務める等、個々の能力が発揮できるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外部の研修参加を推奨し、職員の自己向上についてバックアップをすると共に指導、責任を啓発している。また、職員同士の共和もできている	内外の研修の機会を確保し、様々な視点から人権尊重について意識を高めている。また、職員のストレスケアにも配慮している。	

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に内外の研修参加を職種、経験・個々の必要性を尊重及び重視して計画、実施している。また、状況に応じ管理者は個人面接を行い職員の悩みなどの相談も受けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会及び施設外の研修参加を於いて、他施設との情報交換の中からプラスになる点を取り入れサービスの質の向上に努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、個々の心身状態を家族から情報収集して、状態把握を図り、個人に合った対応や考慮に努めている。また、傾聴、受容、共感的対応に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、後・・・家族の意見や要望を受け入れ、納得いただける説明を行い、関連書類などを提示する等、不審、不満感を除去し信頼関係を築いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態像、生活歴、入居者と家族の求めている事を受け入れ、新環境の中心身共に無理なく順応できるよう支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さまと職員が一体となって、家族関係的な状況の中で過ごしていただいております、その中でも尊厳を損なうことなく一定の規律を守り対応している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に保ち、必要に応じての電話連絡および毎月、“ホームだより”に心身状態や生活関連の情報を送付し、利用者さまの現状態が常に家族が把握出来る工夫をしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の来訪歓迎。利用者さまの好みや趣味などを把握し、それに応じた対応考慮。また居室内の環境(本人の馴染みの家具や物品、空間)維持に配慮、支援できるように努めている	家族や知人の方の来訪を歓迎し、また、その機会づくりにも配慮している。センター方式も活用しながら、生活習慣や趣味活動等、これまでの暮らしを把握するよう努めている。	

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度、認知度、身体状態を常に職員が把握し利用者間の調和、トラブル防止に努め利用者の関係がうまく図れるよう留意している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、他施設への移動後も電話連絡・・・その他フォローを行い家族との相談、連絡維持している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの人格を尊重し、本人の能力に合わせた対応・・・また身体面の安楽を常に重視しながら傾聴、受容、共感を常に心にとめている	センター方式を活用し、多面的に情報収集を行っている。新たな気づきは、ミーティング等を通じて、意見交換や情報共有を図りながら、随時追記されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴、背景、職業、経験を情報収集しメモリーケアに努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録を職員間で共有し、本人のペースや心身状態に応じた個別的ケアをしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状態の変化、家族の要望や意見なども反映させ、月に一度のカンファレンス、ミーティングに於いてアセスメントにて評価、課題分析して介護計画を作成している。合わせて心身状態の大きな変化には、臨機応変に職員間で話し合いの場を設けている。前後して、ご家族に連絡相談の形もとっている	定期的カンファレンスや評価を通じて、現状の確認や課題分析、見直しの必要性について検討している。担当スタッフを中心として意見交換を行い、職員全員が個別の意向や状況を把握し、介護計画作成に活かせるよう取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し心身状態の変化など、職員間で内容を共有し業務に反映させ、それを元に介護計画、ケアの見直しに活かしている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出および個々に応じたりハビリ、それと室内外でのレクリエーション、年間行事をひと月ごとに予定、実施。また医療との連携、受信対応、理髪など・・・その他多くの柔軟な支援に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署協力の火災非難訓練、警察署の協力や市民センター利用、近隣スーパーに利用者さまと買い物。また公園での散歩などと地域資源の存在を有意義に活用させてもらっている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と合わせて、身体状態により臨時の受診。又その他の専門医との連携と受診を維持して常に入居者の健康管理に努めている	希望するかかりつけ医がある場合は、継続して受診が可能である。また、月2回の提携医による往診、週1回の歯科往診体制が整備されている。看護計画が作成され、医療的な観察視点の確保と早期対応につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さまの身体異変に際しては、すぐに対応できる状態にある。利用者さまの健康状態や管理など記録し、3カ月毎の看護計画作成及び、介護者にケアポイントを指導し、対応協力体制が整っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報提供、相談できる状況状態を維持できており、施設関係者は率先して本人の”お見舞い”を行っている。また、出来るだけ家族の負担軽減の為、職員が雑務対応(衣類の洗濯など)に努めている。それと退院時の「サマリー」により職員で早速・・・アセスメントを行い退院後のケアに活かしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に関する対応方針を定め家族、医師、看護師を交え、話し合いのできる状況を確認しており、入居者の終末期を安楽に過ごしていただけるように職員の指導を含め、“チームケア”に努めている	重度化や終末期のあり方については、明確な指針の作成や意思確認を通じて、方針の共有に努めている。状況の変化に伴い、家族や医師、看護師を交え話し合いを重ね、その都度、意向確認と方針共有を図っている。併設する小規模多機能型事業所での看取りを経験しており、ミーティング等を通じて職員の理解や意識を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成をしており事故発生時及び利用者さまの急変時の対応、処置の意識を徹底している		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年に2回)消防署の協力と共に、避難訓練を実施し避難先の確保、とっさの対応確認などの見直し。また講習参加やミーティング時に公開して職員間に浸透意識化している	年2回、併設する小規模多機能型事業所と合同で避難訓練を実施している。訓練時には消防署よりアドバイスを受け、課題を明確にしている。備蓄品も用意されている。	運営推進会議も活用しながら、地域との協力体制の構築に向けて、継続して取り組む予定としている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の徹底に努め、利用者さまを尊重する気持ちを大切にすると共に介護者としての守るべき態度を認識し、個人情報保護についての把握をしている	目配り・気配り・心配りを常に意識した関わりとなるよう、職員教育を行っている。画一的な対応ではなく、個々人の理解や尊重を重視している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまの尊厳を重視し個々の身体状況に応じた対応に努め、コミュニケーションを図り本人からの主訴要望を尊重し受け入れている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまの心身状態を把握し、その時々感情、気分も考慮し個々のペースに合わせた対応をしている。(リハビリ、生活動作、排泄、入浴、食事、その他)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による定期的校門カットを実施。また、常に洗濯したての清潔な衣服の着衣ができるよう配慮している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる方には食材(モヤシのひげとりや枝豆の皮むき、ゆで卵の皮むき)などをして頂いたり、また身体機能に合わせた食形態の配慮や旬である季節食材を使ったり、年間行事に合わせて献立の工夫を実施(正月、お雛様、敬老の日、誕生日、その他)	業者による献立をもとに、ホームで調理されている。調理の下準備や引き膳、食器拭き等に参加する方の姿もみられた。歯科医により、口腔ケアや嚥下体操等の指導を受け、日々実施している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立により、必要カロリーの確保維持が出来る。それと必要水分量の摂取についても確保出来ている(フロシートに記録)		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実行！できない人への対応は職員が行い、入れ歯は夕食後にポリドント仕様にて消毒を行っている。週1回の歯科医往診にて異常チェックや通常では見落としがちな部分のケアチェック、口腔訓練、および嚥下訓練の指導も受けている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導にて自然排泄できるよう、排泄パターン表を使い実施中。また利用者さまの状態によっては、職員複数での対応を心がけたり、自然排便(便秘がち)できない方には穏下剤を使用し定期的に排泄できるよう支援している	排泄チェック表をもとに、一人ひとりのパターンを把握できるよう努めている。排泄の自立にむけ、レクリエーションや体操などで下肢機能の維持、活用に取り組んでいる。個別の状況を鑑み、必要な介助について検討し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質食材、水分摂取、運動、腹部マッサージなどで腸の蠕動を促進及び緩下剤の与薬などで対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	更衣室、浴室の室温調整及び安全確認の把握に努めて保温管理に努めている、週3回の入浴を実施しており必要に応じて適宜対応したり、利用者さまのようぼうによっては時間の変更をしたり利用者さまサイドを基本としている。それと入浴前のバイタル確認の徹底、入浴後の水分補給実行実施にも留意している。「入浴中は歌の好きな人には一緒に唄ったりしながら介助したり、自立の方にもドア越しからの声かけをしたり背中を流してあげたりしている」	週3回の入浴日を設定し、希望や体調、状況に応じて柔軟に対応するよう努めている。安全面への配慮を徹底し、環境整備を行うと共に、入浴後の水分補給等、体調管理を常に留意している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の採光調節、室温調節、心地よい寝具、寝衣(日光に当てる、常に洗濯した清潔寝衣)に配慮している。また、精神的安定を維持できるよう日中の心身の活性化にて安眠につなげている。それと車椅子利用者や高齢の方には安楽、体圧分散などを兼ねて午前、午後の数時間ベットで休息できるよう配慮している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、与薬時には複数の職員でチェックをしており、与薬するときは声を出して「日付、名前、朝昼夕」の確認をしている。それと処方箋に目を通し、処方薬の内容を確認・把握するように努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの機能に合わせた役割分担をしている(食器拭き、おぼん拭き、洗濯ものたたみ、洗濯干し、掃除、園芸)また、外出希望のある方には出来るだけ希望に沿ったり、天候に合わせて戸外散歩・・・また年間行事を作成して催事、誕生会、ドライブなどを実施している		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	NO,50と重複するが、天候に合わせて近隣の散歩、買い物などを行っている	天候や体調を考慮し、外出の希望に答えている。庭に咲く季節の花を見たり、草取り等の手入れを自由に楽しんだり、近くの小学校まで散歩に出かけている。春には四季の丘公園で花見を楽しむ等、季節に応じた外出行事を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さまの心身の状態により殆どが施設での預かりとなっている。必要な買い物など家族に了解を得て買い物ができる利用者さまには職員が同行する。また、医療費、理容代なども職員が預かり金の中から対応している。その管理として家族来訪時に、収支表、残金、領収証の確認をして頂き押印していただいている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや本人が外部に連絡する時などはプライバシーを保ち快く対応している(機能維持の利用者さまに限り)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に関する作品や生花を飾って、家庭的な雰囲気づくりに努めている。また、日中はリビングで利用者さま間でテレビ観賞、会話等が楽しめるようにしており生活感、季節感のある空間を維持できるようにしている	落ち着いた色調で統一された共用空間は、採光も良く、明るい。ソファの配置や和室スペース等、くつろぎの場所も確保されている。対面式のキッチンが採用され、調理の音や匂いが伝わり、生活感や家庭的な雰囲気を感じることができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	疲れて休みたいときは自室で過ごしラジオを聴く方、リビングで終日過ごす方など個々に応じた居場所の確保ができており座る席も決まっている。また、食事をしたり、唄ったり、レクリエーション、リハビリと多様にリビングで過ごしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた家具等を持ち込むようにしており、自分の家と変わらないよう(過ごしやすい)空間づくりをしている	開口部が大きくとられ、開放的な各居室には、使い慣れた家具が持ち込まれ、写真を飾る等、居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、生活習慣や状態に応じて畳を敷く等、安心して過ごせる環境作りが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口に個人の名前が分かる様に提示している。また、浴室、トイレなどの明示に努めたり“バリアフリー”の施設内での設備徹底に配慮している。それと利用者さまの行動については、常に職員が注意を払らい、リスク防止の徹底を図っている。その他、残存能力を生かして、利用者さまのできることは極力自立できるよう支援している		